

しょうがいしゃ じりつせいかつじょうほう
障害者の自立生活情報

ナンバー
No.68



ナビゲーション

ねん がつごう
(2021年11月号)

じりつ みちあんない
自立への道案内



えぬぴーおーほうじんじりつせいかつ やまもと ひろし
NPO 法人自立生活センター・リアライズ 山本 啓司さんにインタビューさせていただきました

もくじ

- シリーズ いろいろなテーマの「なぜ」を解消！
～山本 啓司さんに聞く
なぜ施設はなくなるのか なくしていくために必要なことは～…………… 2
- シリーズ ～Sevenメッセージ～障害者自立生活センター・スクラム 姜 博久さん……………10
- おすすめのお店紹介します～relax salon Ohana～（散髪屋）……………13
- 編集後記……………16

シリーズ いろいろなテーマの「なぜ」を解消!

～なぜ、施設は作られ、なくならないのか

なくしていくために必要なことは?～

このコーナーでは教育、施設、交通など各分野に詳しい人にインタビューをしていき、当時の障害者や制度の状況、その制度はどう変わってきたのか?今、取り組んでいること、これからの課題はなにか、など語ってもらうというコーナーです。前回に引き続き『なぜ施設は作られ、なくならないのか なくしていくために必要なことは?』ということで今回は、大阪府泉大津市のNPO法人自立生活センター・リアライズ 生活介護パイオニアの管理者をされている山本啓司さんに「施設を辞め、なぜ自立生活センターで働こうと思ったのか?」「自立生活センターで働き始めて変わったこと」「なぜ施設はなくならないのか」などお話をうかがいました。

<プロフィール>

山本 啓司 (37歳)

特定非営利活動法人自立生活センター・リアライズ

生活介護パイオニア 管理者

活動歴 14年目

趣味 音楽、映画、お酒

～ビジョンは、なかった～

山下: 今日、よろしくお願ひします。前回から施設をテーマにお話を聞いて聞かせていただいています。今回は、大阪府泉大津市で活動されています自立生活センター・リアライズの山本さんにお話を伺いたいと思います。よろしくお願ひします。

山本: よろしくお願ひいたします。

山下: リアライズで活動する前は、どんなことをされておりましたか?

山本: 大学を卒業して、1年に満たないんですけども、高齢者の特別養護老人ホームで仕事

をしていました。施設入所の人に対する介護をしていました。実習で関わった人たちの印象が良かったので、そこに決めたいです。頭の中には僕も就職先としては、とくべつようごろうじん特別養護老人ホームが大きかったですね。福祉の業界でもお給料もそこそこあるし、惹かれたのは、正味そのへんですね。

山下: 生きていくためにお金は大事ですからね。地域の人にむけて支援という考えには至らなかったんですね。

山本: もともとは、地域で生活する高齢者を支え

るために相談する社会福祉士になりたかったというのもあるし、直接、介護とかではなくて、相談支援的なことをやっていきたくて、特別養護老人ホームの中でも相談をしている人達って、ごく一部やし、まずは介護からという感じで、施設長に言われて、頑張ってみますみたいな感じでやっていたと思います。

山下：当時、施設で働いていた様子を教えてもらえますか？どんな気持ちで働いていたのかも合わせて教えてください。

山本：入所されている方の身体介護などいろいろな介護をしていました。ぶっちゃけ、なんか働き始めて半年ぐらい経ってからなんか違うなって思い始めたんです。いろいろな要素あると思うんですけど、人間関係が悪くという部分もあったし。

山下：職員同士の人間関係が悪いということですか？

山本：そうですね。施設という中で頑張っている施設やったんかなと思うんですけど、現実には頑張っても出来るのは限られていて、よくいうご飯が終わったらトイレの前に行列が出来るというのを普通に見てきてた。

山下：よくある施設の状況ですね。

山本：50床ぐらいあったんかな、利用者も同じぐらいおって、深夜帯は職員2人なので、けっこうハードでしたね。

山下：50人も一人でサポートできないですよ。

山本：そうなんです。だから、ちょっと待つというフレーズが、あんまりよくないよというけど、絶対言わなアカンので、1日10回は言っていたと思います。

山下：そういうところに、しんどくなってきたということですね。

山本：自分の頭の中ではこういう風に、この人は関わっていきたくて、介護したいなと思っているし、現実全然出来ないというところに自分の葛藤が大きくなってきました。福祉とか学んでこういうのを支援したいなと、人のために生きていきたいなと、この人の人生支えていきたいなと思う人やったらこの葛藤ってぶつかると思うんです。そういう思いを持つ人も、徐々に自分の身の置かれている状況に慣れてしまっている人が大半やと思います。自分もこのままいたら慣れていくんやろなと思いました。慣れていくって自分の価値観を変えていくというか、大事にしたいものを消していくイメージがあったから、これ慣れていっていいんかなみたいなものが、自分に思ってた時期がありました。ちょうど、半年ぐらい経ってからかなあ。最初の頃は、自分のことを考える暇がなかったんです。ある一定、仕事を覚えて、自分でこれやれていけるわってなったら、これやってるけど、この時間の使い方ってるんかなと思いはじめてきたんです。

～自分に嘘をついて生きてきた～

山下：施設で働いてたら、こういうもんなんや。トイレ行列できたりとか風呂介護、異性介護とか、当たり前、これが普通なんやっていうことですよ。今、施設辞められて、自立生活センターで働こうと思ったきっかけは何ですか？

山本：リアライズで働こうと思ったきっかけなん

ですが、三井さんに誘われたんですね。いろいろ話したんですが、覚えている言葉がいくつかあって、やり取りとしては「今やっている仕事どうなん？」と。僕は、けっこう施設の中でも、いろいろ葛藤とか、どうにかなれへんのかなと思いつつも、やっていた。良いイメージを持ってやっていた。「けっこう良い施設やと思うよと言うたり。」「じゃ、ひろしは、歳とったらその施設入る？」と聞かれたんですけど「僕は入らへん。」と答えたんです。反射的に。俺入らへんいうたなど。「入らへんということは良い施設じゃないよな。」と言われて、そうやなあと思つて。それが、大きなきっかけやったんです。

やました 山下：三井さんに言われなかったら気づけなかつ

たところなんですかね。

やまもと 山本：自分はなんでそこは嫌やって言うたかというのと、トイレの時間やお風呂の時間、起きる時間、寝る時間決まってる。こんな拘束された生活は嫌だ。と思つたんです。施設で暮らしてるのを見て、全部良くないと思つていました。良い部分は全く見えなくなりましたね。三井さんとそんな話をしてから。今まで施設で働いて「良いよ。良いよ。」と言うてきたけど、ここで働き始めて、い

やました 山下：180度変わりましたね。人に与える言葉の力

つてすごいですね。

やまもと 山本：今でこそ、自立生活している障害者がまわり

ましたね。ちょっと格好いい言い方をすると自分に嘘をついて生きてきた感じはしますね。自分が感じたことを率直に言えるし、自分の気持ちを大切にしてくれる仲間がたくさんいてるし、今は、あんまり自分の気持ちをばかして仕事はしてないけど、施設で働いていた頃はばかしくつていた。自分はこう思うけど、出来へんから諦めようとか抑え込もうとか。



えぬびーお一ほうじんじりつせいかわつ
NPO法人自立生活センター
リアライズ設立集会

～三井さんのおかげで～

やました 山下：なかなか、職員同士お互い話すること悩み

を話することがなかつたんですかね。相模原事件もそうですけど、植松被告が考えこんでしまつて事件を起こしたのかなと思つていました。なかなか、仕事はしんどいけど、こういうもんなんやと、頑張らなあかんやみたいなのがあつて、相談が出来ないから、そういう事件とか起きるのかなと。

やまもと 山本：あると思います。そこをだから、相談する

人はいなかったし、忙しすぎるというのはありますね。僕の友達で施設で働いている人おるけども、自立生活を支えてることを伝えても「そんな状況ってあるん？」と言われたこともありました。

やました 山下：そういう意味では、三井さんに初めて自立生活のことを教えてもらって、目から鱗だったんじゃないんですか？そんなありえ得へんやろと。

やまもと 山本：やっぱり思っていましたね。介護が必要で制度とか使って在宅で生活している人で高齢者は家族が介護してる人が多いと思わうんですけど、高齢者分野の人は特に分かれへんと思いますね。自分は三井さんが誘ってくれたから今、ここにおおと思うんですけど、同じような誘い方をしたら、全員きたかというともうでもないと思うし、いろいろあると思います。僕はそれを選んだだけで、でも、やっぱり、今考えた時に、施設って介護とか相談支援とか、利用者トラブル対応についての研修は力を入れてすると思うんですが、地域で自立生活している人のこういう生活もあるんやよという研修は圧倒的に少ないんなどと思いますね。

やました 山下：障害者の生活もあるんだよと施設の人も知っていける機会があれば良いと思いますね。

やまもと 山本：僕も相談しなかったのは施設の中で、これからの自分の人生を選ぶという土台がなく、選べる土台がないところから話するので、施設の中での話で完結するんですね。みんな、その世界にどっぷり浸かっていて、施設の中でしゃべったとしても施設の中での介護の話でしかならないんです。

～施設での経験は無駄ではなかった～

やました 山下：その人の人生とか、こういう選択肢もあるよなというふうにならないんですね。

やまもと 山本：そうですね。ならないから話しても仕方ないみたいな話しても面白くないと思ってましたね。無駄な時間やなど。一応暗黙で禁止されてたんやけど、飲み会で、利用者の話になって、こういう介護は嫌やとか。でも盛り上がるからそういう話になるんですよ。でもそういう話には不毛やなと時間をもったいないなど。逆にストレス溜まるだけやん。それを解消出来る方法を一緒に考えないと、よくないと思ってましたね。綺麗ごとですけど思っていました。大学の時の友達とは話しやすいのは、みんな大学で福祉のことを学んできて、いろんなことで悩んで、自分は福祉の現場に関わっていきたくて話をしてきたから、土台が揃っているという感じがしました。施設は、閉鎖空間はやっぱりあるなと職員だけじゃなくて、当事者もそうやし、変なうっぷんみたいなのがあって。爆発したから相模原事件みたいなことが起こるんやろなど。こういう生活のやり方があるとか、では、それにむけて自分たちはどう支援していこうとか、ちゃんと話す土台が出来てあつたらちよつと変わってたのかもしれんなとは思っていますね。

やました 山下：施設で働いている人は自分の生活がかかっているから、施設で働いていきたいと思っっていると思うから、働いている人に問題があるのではなくて、施設のシステムに問題にあるということですかね。

やまもと 山本：僕からしたら、ほぼそれですね。100%に近いぐらいでそうだと思います。施設で暮らしている人も地域で暮らしたらいいやんとすごく思うんですけど、そこに行きつかない人もたくさんいますよね。もどかしい

とか、ちゃんと伝える方法って、自分が持っておかないとダメやなと思いますね。施設で働いていた頃は、地域移行この人できるんちゃうかと思うこと自体を知らなかったし、地域移行の選択肢がなかったです。でも自分が施設で働いていたことは無駄とは思ってないです。良かったなと思います。

やました

山下：それは、どんなところですか？

やまもと

山本：施設での経験がなかったら、地域での生活がベースになってしまうからそれが当たり前やんと。今やっている地域生活が全員出来るかというところではなくて、やっぱり施設を選ばざるを得ない人とか選んだ先にこういう状況になるんやなど。前の経験があるからこそイメージ出来るし、そのイメージは自分が今やっているモチベーションに関係していて、自分の関わっている人が施設に行くとなると、その時のイメージがあるから「施設はアカンよ。」言える。

やました

山下：経験がなかったら本気で言えないですよ。

やまもと

山本：施設でやっていた頃に戻りたくない、誰も戻りたくないというモチベーションがあるから、出来てると思います。施設経験者に聞くことで自分のモチベーションを維持するとか、こういうことをやっていきたいという確認するという意味もあると思います。経験者に聞けば聞くほど施設ってアカンとしか思えなくなりました。



しょうがいしゃうんどうはっさんか
障害者運動初参加

～やりがいポイントだと思えます～

やました

山下：リアライズで地域移行を取り組んでいき

たという話はしますか？

やまもと

山本：時々ですが、やっています。パイオニアで

メンバー増やしていきたいと思っていて、

地域移行をしていく人を増やしていきたい

なという話をしています。地域移行を1

つの活動として、メンバーが訪問していき

たいですね。でも、パイオニアのメンバー

であっても、どうして僕たちは施設から

地域移行というのを促していきたいん

かということを知らない当事者もたくさん

います。ずっと地域で生活している人た

ちやったら、施設の縛られ感を知らないか

ら、別に一つの生き方として施設があっ

てもいいじゃないかと思えます。当事者がみ

んな、同じ温度で施設がアカンというのは

決着つけへんと思えます。施設反対という

感じにはなれへんのかなど。仕方ないと思

う。その中を体験してきて、やっぱり嫌や

でと言えるけど、知らなかったら介護が

安定している。やっぱり施設いるんちゃう

んと言う人もいてると思う。その時に、

施設経験者が話をすることが大切だと思

います。

やました

山下：健全者スタッフの中でも、山本さんのよう

に施設で働いた経験をして自立生活セン

ターで働き始める人と、いきなり自立生活

センターで働き始める人の違いとか感じ

たりしますか？

やまもと

山本：大学卒業してすぐにリアライズに来る人も

いれば、大学卒業して施設で働いて、辞め

てリアライズに来る人もいます。その人

の進む道なので、どっちが良いとか悪いと

かというわけではないけど、施設を経験し

ている人は親近感が湧きますね。同じ経験
 をしているんでね。辞める理由はいろいろ
 あるけど。介護のやりがいて難しいと思
 うんですよ。介護にやりがいを見出すのは
 けっこう難しいとっていて、ルーティ
 ンワークが多いじゃないですか。ずっと続
 けるのも大変やなとっていて。モチベー
 ションを保つためにどうしていくのかリ
 アライズで話をするところがあるんですけ
 ど、リアライズに関わる動きとか運動へ
 の関りとか、介護以外で関わると実感
 を持てたらいいんですけど、僕の中でやりが
 いがポイントやとっていて、やりがいを
 もってやっている人は、良い介護もするし
 良い相談支援もするし。僕自身はやりがい
 を持てているのは、施設の経験があったか
 らかな。気づけるポイントがいっぱいあっ
 たと思います。



パイオニアの障害者と一緒にランチ

～正義と悪のぶつかり合い～

やました 山下：リアライズで活動を始めて何年目ですか？
 やまもと 山本：リアライズで働き始めたのは23歳の時。
 13年目です。リアライズで働こうと思っ
 たのは勢いです。福祉って働き口たくさ
 んあるなど。もしアカンかったとしても、
 他に行けるところがあるんじゃないかと。リ

アライズをみて楽しそうやからというの
 はありましたね。自分たちでやるってどん
 なことかなと。楽しいこととか人と違うこ
 とをやりたいと常に思ってしまう人間な
 んですよ。そこにリアライズがマッチした
 感じですかね。

やました 山下：交通はホーム柵が設置されたり、教育の
 問題だとインクルーシブ教育といわれて
 きたりしてきてて、少しずつですが、バリ
 アフリーやインクルーシブな社会が進ん
 できたなと実感するんですけど、施設は、
 進んだ！と実感として少ない感じがしま
 すが、どう思いますか？

やまもと 山本：正義のぶつかり合いやと思います。味方で
 も敵でも味方からみたら正義やし、敵から
 見たら正義やしそれぞれ否定しようのな
 い正義ってあるなど。自立生活運動でもあ
 るとっていて、リアライズを守っていき
 たい続けていきたい、その方向に行ってい
 るやけど、別の方向が2つ出てきて、ど
 っちも正しいとと思っているからぶつかり
 あ合うんですよ。でも、どちらもリアライ
 ズを守っていく。という考え方は一緒。
 意見は違うけども方向性は同じところを
 向いているということですかね。施設の話
 でいうたら、施設も地域も、どちらも
 障害者を守りたい。障害者を排除しよう
 とは思っていないんですよ。障害者の
 命を大切にしたいと思っている。そこは、
 意見が一致している。

やました 山下：方法が違ったり、命の守り方が違うんです
 かね。命は守るけど、人生はなんでもええ
 んかと。そこは違うやろと。命を守るとい
 うところが、別に敵対しているわけではな
 くてという感じでしょうか。

やまもと じつ いっしょ かんが
山本：実は一緒に考えて、リアライズも
しせつ じぶん しょうがいしゃ いのち まも
施設もどっちも自分の障害者の命を守る
せいぎ ぬ ま
という正義を貫いてるんですね。曲げよう
とせずに。というののかなと今ぼんやり思
って。例えばホーム柵やったら、なかった
ら死ぬわけじゃないですか。どこからどう
み あく せりつ
見ても悪なんですよ。それは成立しやす
いなど。設置しないでいいという正義はそ
こには存在しないんです。施設は障害者の
せいかつ まも
生活を守るということについてはものす
ごい一生懸命。それが、なくなれへん原因
おも
かなと思います。



ちいき まつ しゅってん
地域のお祭りに出店しました！

かんせい そだ ぼ ～感性を育てていける場に～

やました かつどう
山下：これからどんな活動をしていきたいです
か？

やまもと じりつせいかつ おもしろ
山本：自立生活センターの面白さって、それぞれ
おも りようしゃ しょくいん
あると思うのですが、利用者、職員という
かんけい わく おさ ふくし
関係の枠に収まってしまうような福祉の
げんば はたら けん
現場にしたいくないなど。働いている健
じょうしゃ どうじしゃ りようしゃかんかく
常者だけでなく、当事者も利用者感覚
もも ひと おお おも
を持っている人も多いと思う。リアライズ
どうじしゃ けんじょうしゃ たの くる
も当事者も健常者も楽しんだり苦しんだ

いっしょ ぼ
り一緒にやっていく場だとおもうんです
けど、どっちが上とか下とかか関係なく
しょうがいしゃ けんじょうしゃ ささ あ
障害者も健常者もフェアに支え合い、
かつどう ぼ め ざ
活動していく場というのを目指していき
たい。どうしてもほかの事業所とか、
いっばんてき しゃかい そだ しょうがいしゃ
一般的にある社会で育ってきたら、障害者
まも びとく あま
を守るものが美德であったり、そこに甘え
てしまう当事者もいてると思う。そこに頼
どうじしゃ さいしょ しかた
る当事者もおって、最初は仕方ないけど、
しょうがいしゃ けんじょうしゃいっしょ
障害者と健常者一緒になってやっていく
ということじゃないんですね。フェアじゃ
なかつたら、ただの福祉事業所の枠にはま
っていき、ひと かんけい つく かた
し、人の関係の作り方としておも
しろくなさそうですね。そういう感性を育
かんせい そだ
てていける場になればいいと思います。
どうじしゃ ひと つた
当事者も人に伝えることをしたらいいと
おも けんじょうしゃ
思うし、健常者も。リアライズでこういう
ことをやっていきたいというのを持って、
もくひょう も けんか
目標を持っていかないと喧嘩になるだけ
やし。やっていくためにどうしていこうか
どじょう つく たいせつ おも
と土壌を作っていくことが大切やと思
います。



ことし
今年、パイオニアのメンバーが
めいふ
2名増えました！

～施設は終着ではない通過点～

やました さいご しつもん おも
山下：最後に質問させていただきたいと思います
が、どうして、施設とかなくならへんのか、
なくしていくために当事者はどんな活動
をしていったらいいか。

やまもと く かえ せいぎ
山本：繰り返しになるかもしれませんが、正義と
せいぎ たたか おも あく
正義の戦いやと思います。どっちかが悪になら
ないとなくなへんと思ひます。自分たちが
でき ちいき せいかつ
出来ることって地域で生活できるんやと
ロールモデルを増やしていくことやと思
ひます。施設で生活している人って
あきら ひと おお おも
諦めている人が多いと思うので、モデルが
すく おも しよくいん
少なすぎると思ひます。職員にとっても
しょうがいしゃ ちいき せいかつ
障害者にとっても。だから地域で生活して
いることを見てもらうことが大切だと思
ひます。いろんなことと関わるのが大切
なのかな。差別や偏見って今の社会で生き
てたら満ち溢れているし、僕自身も気づか
へんけども、障害者に対して差別してきた
ことあるし、当事者と出会ってこれって
さべつ き いしき か
差別やったんやなと気づくと、意識が変わ
ると当事者への見え方も変わってくるし、
み かた か どうじしゃ せいかつ かた
見え方も変われば当事者の生活あり方も
み おも すこ ちいき
の見えるてくると思ひます。少しずつ地域の
ひと し ひつよう
人に知ってもらふ必要があるんかなと。
しせつ りようしゃ へ しやかい いしき
施設の利用者を減らしていく。社会の意識
か う ざら ちいき しせつ
を変えていく。受け皿は地域にある。施設
なか けんしゅう おも
の中の研修は、やっていると申うんやけど、
しせつ たか けんしゅう
施設のクオリティを高める研修をしてい
ると申うけど、その人の人生をどう考える
かということはやってないと思ひます。施設が
しゅうちやく つうかちてん おも
終着ではなくて、通過地点だと思ひます。
しせつ けんしゅう で き
施設での研修とかアプローチ出来ていけ
たらいいなと。ちいきいこう せつきよくてき
地域移行を積極的にしてい
る施設が増えたらいいなと思ひますね。

やました しせつ しょうがいしゃ しよくいん どうじしゃ
山下：施設の障害者や職員にとっても当事者
がやっている施設取り組みのことを、知っ
てもらって地域でも暮らしていけるとい
うことを知ってもらえたらと思ひますね。
きょう
今日はありがとうございました。

山本：ありがとうございました。

せ ぶ ん 〜〜〜Seven メッセージ〜〜〜

【プロフィール】

- ・ 名前：姜 博久
- ・ 所属：特定非営利活動法人障害者自立生活センター・スクラム
- ・ 今の仕事は18年目
- ・ 大正区障がい者基幹相談支援センター管理者+相談支援専門員

・ 障害者運動に関わるきっかけ

堺 養護学校時代の同級生が全国障害者解放連絡会議（全障連）関西ブロックの会員として活動していたツテで、大学卒業後のアルバイトとして全障連の大阪での全国大会運営のお手伝いをしたこと。全障連の存在は詳しくは知りませんが、養護学校在籍時に、全障連の前身組織のメンバーであった楠 敏雄さんたちが、堺 養護学校の事務員だった障害者の支援に学校に乗り込んできた際、教員から「怖い連中が来るから職員室には近づくな」と注意されたエピソードを思い出しました。実際に関わってからは、天皇が来阪したときなど、覆面パトカーが全障連の事務所をよく見張っていたこともあったし、中曽根内閣時の臨時教育審議会の大阪公聴会で障害児の普通学校入学を求める誓願書を委員に手渡そうとして警察に妨害されたと、ビラ配りの際には機動隊の車両から写真を撮る嫌というほど撮られたことなどがありました。1990年代には全障連関西ブロックの事務局スタッフとして全障連の取り組みや障大連の部会や全体会などに参加するようになりました。



公開 学習会での司会

・ なぜ、教育や人権問題を取り組んでいるのか（きっかけ・こだわり）

全障連や障大連では労働課題や教育課題、優生思想に関係する課題に関わってきました。それぞれ、わからないこと、知らないことだらけで、会議で議論される中身を理解していくことから始まりまし。それなりに理解することができると、各課題から見えてくる制度や社会の価値観に対してもおかしなことだらけであることがわかってきました。

もともと障害児教育については、自分自身が養護学校 中学部卒業後に入学した地域の普通高校で、同級生との関係や障害者だからと特別視されていたし、なごい経験があったので、社会に出て苦労させられる状態を障害者にもたらず養護学校なんていらんし、あったらあかんと感じていました。また、

ようごがっこう ひつよう こ せんもんか おや かんが りかい ひと
 養護学校が必要な子どもたちがいるという専門家や親の考えが理解できませんでした。そこには、人を
 わ かんが なつとく ひと くべつ
 分けるという考えがあって、それにはどうしても納得できないからです。人をどこかで区別すること
 はできないはずなのに、専門家や親は、特別なことは特別なところと子どもたちを分けようとしています。
 せんもんか おや とくべつ とくべつ こ わ
 それが合理的配慮とか愛情だと勘違いしている。

こくれん けんりじょうやく さくていまえ でいびーあいほんかいぎ じむしょ とくべつしえんきょういくすいしんは だいがくきょういん かた はな
 国連の権利条約の策定前にD P I 日本会議の事務所で特別支援教育推進派の大学教員の方と話し
 あ かん ひと ようごがっこう ひつよう ひと
 合ったことがあります。そのときも、「姜さんみたいな人はいいけど、やっぱり養護学校が必要な人は
 せんもんか い ないしん ぎ けんりじょうやく けんせつてき
 いるんですよ」とその専門家から言われたときには内心ブチ切れました。権利条約のための建設的な
 ぎろん ば こえ あら ひか せんもんか ぼく かつて わ
 議論の場だったので声を荒げることは控えましたが、「こういう専門家がいて僕らは勝手に分けら
 れたら」と改めて感じたことを思い出します。

ひと のうりよく ものさ わ しやかい かしかん かんたん か
 人を能力というわけのわからない物差しで分けてしまう社会の価値観は簡単に変わりそうにありま
 たよう せい もんだい こ う せんたく あ まえ じょうきょう しょうがい
 せん。多様な性の問題にしても、子どもを産まない選択が当たり前でできない状況も、障害のあるな
 かのうせい う えら しゅっせいまえしんだん もんだい ひと せん ひ
 しやその可能性はあるかないかで生まれてくることが選ばれる出生前診断の問題も、人に線を引いてし
 まうという社会のあり方を問うている問題だと思います。それに対してはおかしいと言いつづけたいと
 おも
 思っています。

しょうがいしゃうんどう おもしろ
・ 障害者運動の面白いところ

しょうがいしゃうんどう おもしろ しやかい にんげん
 障害者運動の面白いところは、この社会のおかしいところがよくわかることです。そもそも人間の
 じつ おな おな おも こ にんげん にほんあし ある じょうしき
 カラダは実は同じじゃないのに、みんな同じだと思込んでいます。人間は二本足で歩くという常識は
 ぼく しょうがいしゃ つうよう ある ある べつ にほんあし ある せかい あ
 僕たち障害者には通用しません。歩いたら歩けたで別にいいんですが、二本足で歩けない世界も当たり
 まえ ぼく せかい おどろ こま
 前にあるというのが僕たちの世界です。パラリンピックなどで驚いてもらっては困るというものです。
 よ なか あ まえ あ まえ い せかい おもしろ
 世の中の当たり前が当たり前ではないと、そう言える世界は面白いです。

さんだんと ぎそく せんしゅ ぎそくほこう すず りょうあし ひざした
 パラリンピックの三段跳びの義足をつけた選手のひとは、義足歩行をするために進んで両足の膝下
 せつだん えら い りゆう ぎそく じぶん ある
 を切断することを選んだと言います。その理由は義足をつけても自分で歩けるからだったそうです。ど
 おも ぎそく あし せつだん おも くるまいす
 う思いますか。義足をつけるために足を切断したことをすごいと思いますか。それとも、車椅子よりも、
 ある かんが
 やっぱり歩けたほうがよかったのねと、ちょっと考えちゃいますか。

しょうがいしゃうんどう おもしろ うた こうどう
 障害者運動の面白いところはカラダのことだけではありません。訴えつづけて行動をつづけていれ
 せかい せいかつ か じっかん かだい ふくしせいど ないよう
 ば、世界とそこでの生活は変わることを実感できることです。バリアフリーの課題も福祉制度の内容も、
 ぼく うんどう あし ふ い ころ か じっかん ぼく せんばい せいかつ
 僕が運動に足を踏み入れた頃からするとずいぶん変わったと実感します。僕たちの先輩たちが生活を
 か いど しやかい か とく う つ
 賭けて挑んできた社会を変える取り組みが受け継がれ、いま
 じょうきょう だ すこ さんか
 の状況をつくり出してきたし、そこに少しは参加できたこ
 こうえい おも かんかく つぎ
 とは光栄に思っています。その感覚を次につないでい

えき なかま かつどう
 駅で仲間たちとカンパ活動



くことが、これから僕が果たすべき役割だと思っていますし、まだまだ感じつづけていきたいことです。

・障害者運動をしていく中でモチベーションの保ち方

次につないでいくことが一つのモチベーションになっていますが、スクラムの活動の中で、また相談支援の仕事の中で、現実には人が変わるといふことの難しさを感じてきましたが、若いスタッフに支えられて、自分自身が変わってきたことも実感してきたので、これからも人の変わっていくのと、自分もさらに変わっていくこともモチベーションには、なっているように思います。

それから、年を経てカラダが少しずつ、あるいは急激に変わっていくことに戸惑いながらも、カラダの不思議さをどことなく面白いと感じているところもあります。その変化も一種のモチベーションになっているように思います。

・在日韓国人であり障害者ということでの生き辛さ

在日外国人としての、とくにコリアンとしての、生きづらさは、余り感じたことはないです。ただ、在日コリアンであり障害者でもあることの複合的な差別については1+1ではなくて、それぞれの中に互いを差別してしまっていることの問題があると感じていました。詳しくは、別に書いた文章があるので(「複合差別は、単純ではない—障害者+在日の間か、内か」『部落解放』753号)、それを読んでください。

あと将来的な不安ですが、日本でも、そのうちに外国人への排斥運動が起こる可能性があるとも感じています。ヘイトクライムに関する法律もできましたし、市民の差別に対する意識も高まっているので、そんなに心配することもないかもしれないのですが、災害や国際的な環境の変化で差別が増幅することも意識しながら、外国人も安心して暮らせる取り組みは必要だし、障害者運動の中でも、かつてナチスドイツで障害者安楽死作戦の延長としてユダヤ人のホロコーストがあったことを忘れず、ほかの人権問題への関心を高めていく必要かあると思います。

・社会に障害者のことを伝えていく中で大切にしていること、取り組んでいくべきこと

社会に障害者のことを伝えていく中で大切にしていることは、まず丁寧に向き合うということだと思います。相手が障害者のことをわかっていないと思っても、そこは当たり前くらいにとらえて、何を伝えたいかを丁寧に言葉にして伝えていくことが大切だと感じています。相手にも考えてもらわないといっしょに問題解決はできないので、相手が何を知らなくてわかってもらえてないのか、相手にも何が問題なのかをわかってもらわないと次に進めないのです、そこは丁寧に進めたいところです。障大連の交渉でも、よく府や市の担当者が問題だと認識してもらえているのかを問いかけていきますが、まずは、そこが出発点だと思います。

・座右の銘

揺れて、戸惑いながら、じっくり丁寧に向き合う

おすすめのお店紹介します！

調査者 : 手動車いすユーザー1名
調査場所 : relax salon Ohana
住所 : 〒546-0042 大阪府大阪市東住吉区西今川4-23-12
営業時間 : 火曜日～金曜日12:00～23:00 土曜日・日曜日・祝日 : 8:30～23:00
定休日 : 月曜日
電話番号 : 06-6705-3345
アクセス : 大阪メトロ谷町線駒川中野駅から東へ信号2つ目

今回は、車いすに乗ったままカットと洗髪してもらえるお店を紹介したいと思います。
お店の名前の由来は、Ohanaは、ハワイ語で家族。孫からおじいちゃんおばちゃんまで来てもらえるようにという意味でつけたそうです。

【オーナーさんのお話】
両親と一緒に働いています。
16歳で専門学校卒業し、卒業後、6年間は、色んなお店(散髪屋さん)で働いていて、22歳の時、散髪屋さんに就職。就職したお店が、車いすのままカットやシャンプー出来るようになってたり、ボランティアで老人ホームや住之江区の知的障害者施設に訪問し散髪していました。
32歳の時、自分のお店を立ち上げた。老人ホームへの出張散髪へは、今も行っています。



はじめは、お店の入り口に2段の段差があったが、スロープに変えた。
入口は手動扉になっています。



まちあいっつ べんり
待合室もあり便利になっています。



てんない ひろ くるま いどう
店内が広いので車いすでの移動も、ゆったりできます。



くるま でき
車いすのままカットとシャンプーが出来
せんめんたい だいせっち
る洗面台は 1 台設置されています。



くるま たか せんめんだい たか あ
車いすの高さと洗面台の高さが合わなかった
だい つか ちょうせい
ら台などを使って調整するとのことでした。



かおそ きぼう かた みせ つごうじょう せんよう
顔剃りを希望される方は、お店の都合上、専用
いす いじょう
の椅子に移乗してほしいとオーナーさんが言
っておられました。



てんない ひろ せっち て
店内に広めのトイレも設置されていました。手すりもついています。



かぞく なかよ ふんいき い みせ
家族仲良くされていて、雰囲気も良いお店です。
みなさんも、ぜひ行ってみてください！

